

「水土を守る人々」では、農業や農業用水の役割とこれらが持つ多面的機能等が十全に発揮されていくために、農業水利施設等の維持管理を支える人々の日常にスポットを当てて、その取り組みを紹介することで、農業農村整備や多面的機能の発揮が「人」の支えの上に成り立っていることを伝えていきます。
※不定期で掲載いたします。

地域と共に！非農家者を取り込んだ地域ぐるみの環境保全活動

～高木瀬町二俣環境保全会 書記 秋吉 重宗 氏～ 佐賀県佐賀市

今回「水土を守る人々」で紹介するのは、佐賀県佐賀市高木瀬町の東部に位置する平坦部の水田地帯で、高木瀬町二俣環境保全会の立ち上げ当時から参加され、農業の多面的機能の維持・発展のため営農活動や農地維持活動などを推進している秋吉 重宗さんです。

二俣環境保全会の活動地域は、一部を除いて圃場整備等の基盤整備が行われておらず、

相対的に小さいクリークやあぜ道など、昔ながらの農村風景が残存しています。本会は、非農業者と一緒にになった地域ぐるみの活動が特徴的であり、婦人会が行う植栽や春夏に行う自治会が中心の農地維持活動など、それぞれの役割分担も出来ているそうです。また、役員の高齢化を見据えて、次世代を担う構成員が活躍し、ブログによる情報発信を行うなど、老若男女が共に活動できる組織体制が構築されているとのことでした。



左上から野口さん、秋吉さん
左下から永渕さん、西原さん

1. 活動参加のきっかけ

この活動に参加されたきっかけを伺ったところ、「農地・水・環境保全向上対策が始まる平成19年度よりも25年前、22歳で就農してから二俣地区の公役として農村環境を維持するための活動を行っていた。このため、組織ができた後もやっていることが変わるわけでもな



土砂上げ活動

く、当たり前のように活動を行っている。」と話してくれました。昔は、水路が土水路であったこともあり、土砂上げ、草刈り等が大変だったが、今はU字構をいれており、作業がだいぶ楽になったとのこと。現在の活動は多面的機能支払交付金を活用し、非農家も含め男性13名、女性9名で行っており、水路や、農道、ポンプの維持管理を行っている。また、婦人会が、水路の土砂上げの際に出てくるゴミ等の分別や清掃活動をしたり、農道沿いに花を植栽し、毎月2回手入れを行う等、女性も活躍されている。



清掃活動



景観形成活動

2. 心配していること

苦労話しについて伺ったところ、苦労というよりは、心配していることが2つあるとのこと。

1つ目は「これからの人材の確保である。どんどん高齢化していく中で、今まで出来ていた活動が出来なくなるため、非農家を含め特に若い世代の人材の確保にどう取り組んでいくかである。」

2つ目は「農地・水保全管理支払交付金制度を活用し始めてから、9～10年になるが、今後のこの制度がどうなるかわからないので将来が不安である。農家も少なくなっているので、今の制度を用いて地域全体で取り組んで行かないと、とても手が回らない状況である。」と心情を話してくれました。

3. 活動への思い・心がけていること

高木瀬町二俣環境保全会の活動にあたり、現地で作業するからこそ、いろんなアイデアがでてくるとのこと。その1つとして、「地域内に以前からあった竹藪を伐採しようということになった。伐採するに当たって、チェーンソーを持ち寄ったりと人それぞれのスキルを活かすことで、よりスムーズに行うことが出来た。また、水路の補修等も自分たちで行っている。個人だけでは決して出来なかったことだと思う。だからこそいろいろな方がいることがとても大切であることを実感し、地域

としての一体感も生まれた。当地域は今ではめずらしく、昔から地域性のよいところで、皆団結している。今後もこの地域性を維持して行くには、それを引っ張っていくリーダーが必要である。自分たちの地域を自分たちで守っていこうという信念を持ち、農村の見た目もだが、住みやすい環境を造り、それを守っていかないとけないという使命感をもって、組織の中心である野口さんのサポートをこれからも行っていきたいと考えている。」と思いを話してくれました。



活動の参加者



婦人部の皆さん

4. 終わりに

今まで団結し協力できている秘訣について伺ったところ、「活動が終わったら、懇親会を行っている。これは、活動を終えての一日の労をねぎらうとともに、参加した人の親睦を深める意味を込めて行っている。こういった親睦を機会あるたびに深めていくことで、今まで協力し合っただけなのだと思う。」とのことでした。これからも地域一体となり、協力して活動が続いていくことをご祈念致します。

【九州農政局農村振興部設計課】